



学校だより

3月号

横浜市立東本郷小学校
令和6年2月28日

ひとにやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

いちだんと成長できる3月へ

学校長 堂腰 康博

北寄りの風が強く吹く2月末のことです。子どもたちは、この寒さを乗り切ろうと、ニット帽やイヤウォーマー、手ぶくろ等、思い思いに防寒グッズを身につけて登校してきます。首元が寒くならないよう、マフラーやネックウォーマーをしている子も目立ちます。デザインも種類が豊富で、髪型やその日の服装に合わせて自分で小物を選んでくるようで、門の前で見守りをしているわたしに「おしゃれコーデ」のポイントを教えに来てくれる子もいます。今どきは、結ばずに穴に通すだけで簡単に着脱できるマフラーもあるとのことで、仕組みをわざわざ実演しながら教えてくれる子もいます。どんなに寒くても、いつだって朝の時間は楽しいひとときです。

1年生の男の子が、頭からかぶるだけのネックウォーマーを引っ張りながら、わたしの耳元で囁きました。「これね、ママのなんだ。あったかいやつ、かしてくれたの。」すると、そのまま顔の半分が埋まるまで引っ張り上げて深呼吸をはじめました。「いい匂いがする！」今度は目を閉じて言いました。ふわふわの生地に包まれた暖かい空間は、安心のかたまりのようでした。ご家族のやさしさには、どんな防寒グッズより子どもを暖める力があることを教えてくれるのでした。

あどけなさを残しつつも、東本郷小学校の1年生は、話す力と聞く力をしっかりと身につけ、会話を弾ませるのが上手になりました。どのクラスの担任も、子どもから言葉を引き出すために「尋ねること」を心掛け、経験したことを言葉で表現させたり、事柄と事柄をつないで考えさせたりしてきた成果だと感じています。

今、保育の現場では、友達の話をもみんなで聴き合う「サークルタイム」が注目されています。みんなで輪になって日常で起こったこと、不思議に思ったこと、行事をどうするかなどについてお互いの顔が見える空間で話し合うのです。年長児なりに友達に質問したり、感想を寄せたりしながら、話す子どもの伝えたい思いを大事にして、みんなで理解していこうというのです。

わたしは、「聴く力」というのは、相手への信頼があってこそ育まれるものだと思っています。「静かにしなさい」「しっかり聞きなさい」ではなく、ちゃんと自分の話を聴いてもらえた経験、それがうれしかったという実感が大事だと思うのです。子どもは大人が自分の話を聴いてくれる姿を見て、人の話を聴くというのはどういうことか、を学んでいくのです。1年生の子どもたちは、先生に聴いてもらえる安心感があるのでどんどん自分で考えて、自分で決めて、うまくいかなかったとしてもそこから多くのことを学んでいます。だからわたしたちはもっともっと子どもたちの話を聴けるようになりたいと思っています。



いよいよ学校の暦も今年度最後の月となります。6年生は卒業式に向けて、1年生から5年生は修了式に向けて、教室では残りの日を数えながら、いっしょに過ごせる時間を惜しむ毎日となることでしょう。一人ひとりにとって豊かな成長へとつなげていく、そんな3月がやってきます。